

## 【 生活科 】

### 育成したい「思考力」

- a** これまでの経験を基に、身近な人々、社会および自然等の対象と自分との関係を意識しながら、対象のもつ特徴や価値を捉える力
- b** 具体的な活動の中で、これまでの経験や各教科で学んだことを用いて、生活を工夫したり、自分自身の在り方を改善したりする力

生活科の学習は、対象（身近な人々・社会および自然等）に直接働きかける活動を通して、気づきを質的に高め、子どもが成長していく中で、自立し生活を豊かにしていけるようにすることを目指している。

子どもたちは、身近な人々・社会および自然等と直接関わる経験をしながら、さまざまなことに気付いていく。そして、そのような経験を生かして、対象と自分を結び付けることを通して、その特徴や価値を捉えていく。それが新たな気づきとなる。また、経験を通して気付いた自分の対象への関わりを見直し、生活を工夫したり、自分自身の在り方を改善したりすることで、より気づきが質的に高まっていくのである。このように、自分のよさや可能性に気づき、自己を高めようとするのが、「新たな自分の創造」であり、それは、自立し生活を豊かにすることにつながるのである。

上記「思考力」には段階があり、気づきを質的に高めていくためには、より直接的で感覚的な**a**の「思考力」から、より間接的で論理的な**b**の「思考力」へ移行していくことが必要となる。ただ、**a**と**b**の「思考力」は2学年共通のものである。

それぞれの「思考力」の具体的な内容については、以下で紹介する。

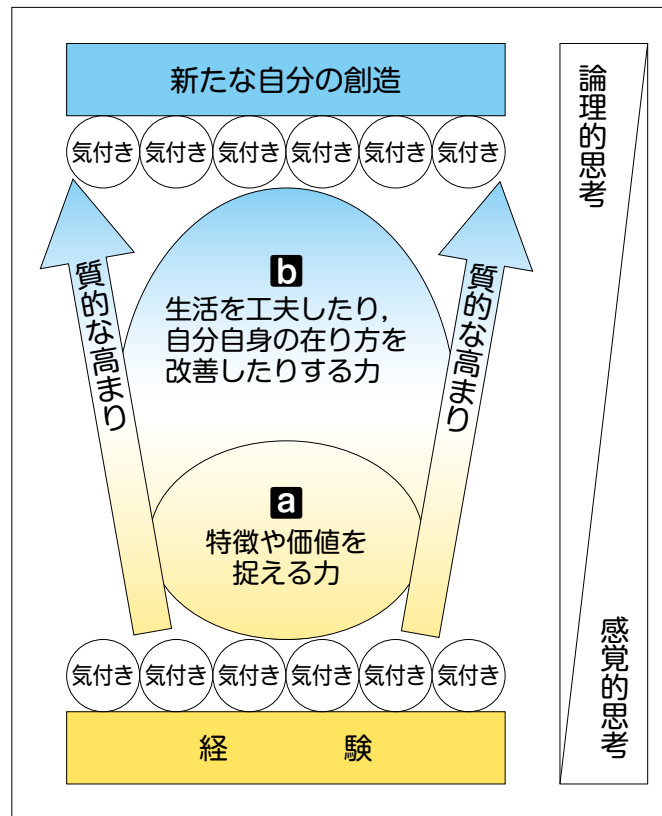
#### **a** 対象と自分との関係を意識しながら、対象のもつ特徴や価値を捉える力

**a**の「思考力」は、自分を取り巻く対象が自分にとってどのような意義があるのか、これまでの自分の経験を基に、対象がもつ特徴やよさを捉えていく力である。そして、捉えたことを生かして、これからどのようなことをしたいのか等、新たな目当てを見つけしていくのである。以下に実践例を紹介する。

#### 第1学年「大好き 附属坂出小学校」

##### 【本単元で育成したい「思考力」】

これまでの経験と学校探検で出会った「人・もの・こと」を結び付けながら、学校での生活のしかたを知り、学校で自分がしてみたいことを見いだす力



本実践では、1年生が学校のことを詳しく知り、学校生活に慣れるために、学校探検を3回行った。それらの過程で、例えば「家では犬を世話しているから、学校でもうさぎを触ったり、世話をしたりしたいな」や「図書室には家よりもたくさん本があるから、いろいろな本を借りて読みたいな」等と、日常生活におけるこれまでの経験と学校探検で出会った「人・もの・こと」を結び付けながら、学校生活について理解を深めていった。探検後の交流で、「体育館にバスケットゴールがあったよ」等と、気付いたことを発表した。そして、次の活動への意欲が高まり「昼休みに、体育館で友達とバスケットボールがしたい」等と、自分が学校でしてみたいことをより具体的に見いだしていった。



【発見からしたいことを考える】

#### **b** 生活を工夫したり、自分自身の在り方を改善したりする力

**b**の「思考力」は、これまでの経験や各教科で学んだことを用いて、課題解決に向けてよりよい方向を模索したり、これまでの取り組みを振り返ってやり直したりする等、これからの新たな行動を工夫する力である。

子どもたちはさまざまな問題に直面した時、これまでの自分の経験に照らし合わせて解決の方法を探ろうとする。問題解決に結び付いた要因を探ったり、要因が複数ある場合にはそれらを比較したりして、工夫や改善のしかたを見いだしていく。

また、各教科で学んだことを用いて、自分の生活を工夫したり、自分自身の在り方を改善したりすることも大切である。例えば、楽しかったことや気付いたこと等を表現する際には、友達や家族、年少者や高齢者等、誰にどんなことを伝えるかを意識して考える場を設けることで、国語科での学習を生かして相手に応じた表現方法の工夫を考えることができるようになる。加えて、生活科が学びの対象とする事象の中には、算数的な要素を含んだ事象（時間や時刻、買い物等）や図画工作科に関わる要素を含んだ事象（おもちゃ作り等）がある。

それぞれの教科を通して学んだことを生かして、生活を工夫したり、自分自身の在り方を改善したりすることができるのである。以下に実践例を紹介する。

#### 第2学年「友達と一緒に作って遊ぼう」

##### 【本単元で育成したい「思考力」】

おもちゃを作り、友達と遊ぶ活動の中で、これまでの遊びの経験や国語科で学んだ説明のしかたを生かして、おもちゃ自体および遊び方やその説明のしかたを工夫する力

本実践では、幼稚園の青組さん（年長児）のためにおもちゃ祭りを開くことを最終の目標として、子どもたちは遊びを考え、友達と相談しながら、おもちゃを作ったり遊び方の説明のしかたを考えたりして、学習を進めていった。その際、これまでの遊びの経験や前時に行った1年生でのおもちゃ祭りの活動を振り返り、青組さんで行うおもちゃ祭りをもっと楽しくするために何を工夫するかを個人やグループで決めた。その後、青組さんが喜ぶような色や飾りを付けたおもちゃにしたり、楽しく遊べるようにルールを変更したりする等、同じ遊びを選んだ友達と相談しながら工夫していった。そして、他のグループの友達に試しに遊んでもらうことで、青組さんにとって楽しい遊びになっているかを確認し、必要に応じてさらに工夫を加え、よりよいものにしていった。



【友達と共におもちゃ作り】